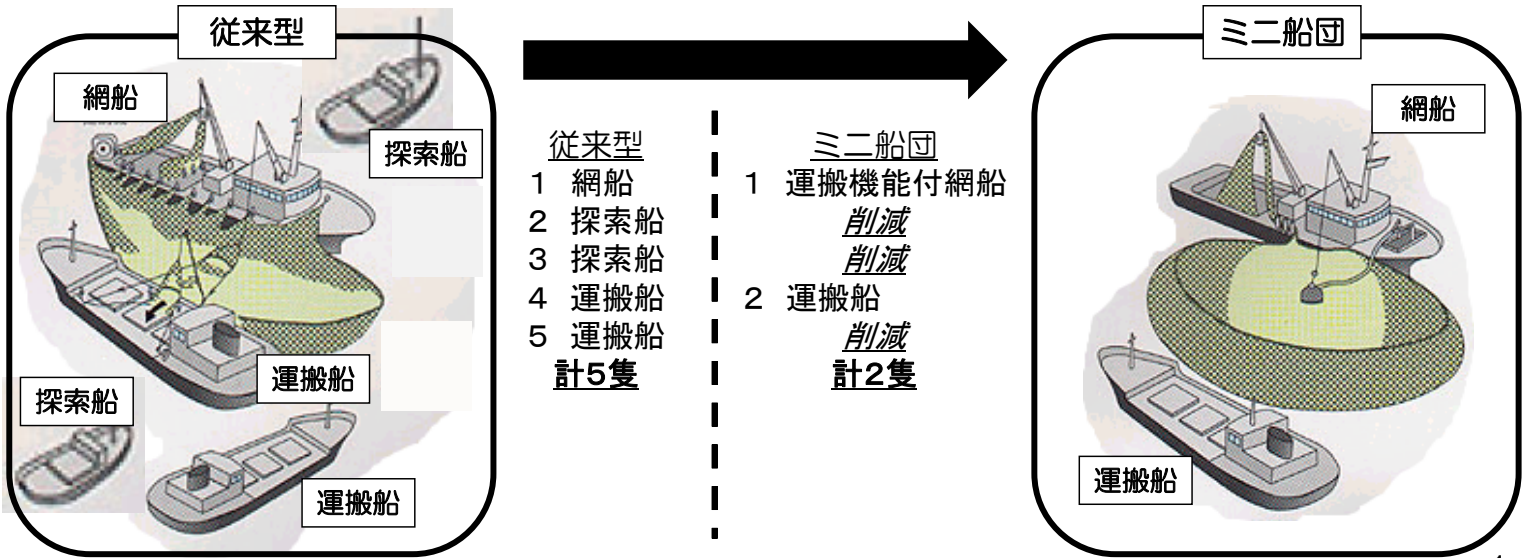


- 漁船隻数の縮減により漁獲能力を増やすことなくコストを大幅に削減し、安定的な経営を図る取組（従来と同規模の漁具（網等）の使用、探索能力の低下等により漁獲能力は増大しない）。
- 網船の大型化による居住環境の改善や安全性の向上。

例えば、5隻体制から2隻体制に変更した場合・・・



1

## 大中型まき網漁業の合理化に向けた取組

### 実証事業（試験操業）後の本許可について

- 試験操業の取組みは海区ごとに実施。この際、沿岸漁業にも十分配慮。
- 大中型まき網漁業の操業については、海区によって対象魚種や操業条件が異なっている。
- よって、ある海区での実証結果を他の海区に適用するのではなく、それぞれの海区における取組み状況を踏まえて当該海区ごとに本許可する考え。

「大中型まき網漁業の許可等に関する取扱方針」（抜粋）（令和2年11月27日付け2水管第1649号）

#### 第3章 船舶の総トン数の変更の特例

##### 第2節 試験操業による大型化

###### 1 審査基準

認可を受けた者が、次に掲げる要件の全てを満たす場合において、当該認可を受けた船舶の総トン数を上回る総トン数の船舶について許可を受けるため、第2章第2節に規定する申請を農林水産大臣に対してしたときは、同節第2項及び第4章第2節の規定に関わらず、許可をするものとする。

(1) 省令第11条第1項の規定による認可の変更の申請に係る船舶が、収益性の高い操業・生産体制等への転換を図るために取り組む「認定改革計画及び認定漁業復興計画に基づく収益性の実証等のための試験操業取扱方針」（平成20年3月24日付け19水管第2893号水産庁長官通知）に基づく**大中型まき網漁業の試験操業の許可に係るもの**であること。

(2) 前号に規定する**試験操業の結果、漁獲量が増大しないと認められること**。

(3) 当該認可に係る操業区域に別表第2の海区9及び海区10を含まないこと。

###### 2 条件

1の規定に基づき大型化した許可船舶（その後の代船を含む。以下「構造改革型船舶」という。）に係る許可については、法第44条第1項の規定により**以下に係る条件を付すものとする**。

(1) **魚そう容積の上限に係る条件**

(2) **網台面積の上限に係る条件**

###### 3 (略)

大中型まき網漁業の合理化に向けた取組（進捗状況）

第二十八野村丸（329トン 根拠地：長崎県南松浦郡新上五島町）

|       | 従来型船団(135トン型)  | 構造改革事業船(第二十八野村丸) |
|-------|----------------|------------------|
| 網 船   | 135トン×1隻       | <u>329トン×1隻</u>  |
| 運 搬 船 | 309トン、320トンの2隻 | <u>309トン×1隻</u>  |
| 火 船   | 85トン×2隻        | <u>85トン×1隻</u>   |
| 乗組員数  | 51名            | 44名              |

同一海区で操業する他船団との比較(漁獲量)

【実証事業開始前】

単位：%

【実証事業開始後】

単位：%

| 事業年度  | 従来型船団<br>(東海黄海海区を主たる操業区域とする<br>他の船団の平均を100とした数値) |
|-------|--|
| H28年度 | 87   |
| H29年度 | 75   |
| H30年度 | 63   |
| 平均    | 75   |

| 事業年度 | 第二十八野村丸<br>(東海黄海海区を主たる操業区域とする<br>他の船団の平均を100とした数値) |
|------|--|
| R元年度 | 36   |
| R2年度 | 37   |
| R3年度 | 61   |
| 平均   | 47   |

注：令和3年度は、  
4年2月末までの漁獲量

3

大中型まき網漁業の合理化に向けた取組（進捗状況）

第二十一きんせい丸（199トン 根拠地：千葉県銚子市）

|       | 従来型船団(86トン型) | 構造改革事業船(第二十一きんせい丸) |
|-------|--------------|--------------------|
| 網 船   | 86トン×1隻      | <u>199トン×1隻</u>    |
| 運 搬 船 | 332トン×1隻     | <u>332トン×1隻</u>    |
| 魚 探 船 | 91トン×1隻      | <u>魚探船なし</u>       |
| 乗組員数  | 42名          | 38名                |

同一海区で操業する他船団との比較(漁獲量)

【実証事業開始前】

単位：%

【実証事業開始後】

単位：%

| 事業年度  | 従来型船団<br>(北部太平洋海区同操業形態船の<br>平均を100とした数値) |
|-------|--|
| H28年度 | 70                                       |
| H29年度 | 80                                       |
| H30年度 | 67                                       |
| 平均    | 72                                       |

| 事業年度 | 第二十一きんせい丸<br>(北部太平洋海区同操業形態船の<br>平均を100とした数値) |
|------|--|
| R元年度 | 67   |
| R2年度 | 57   |
| R3年度 | 51   |
| 平均   | 58   |

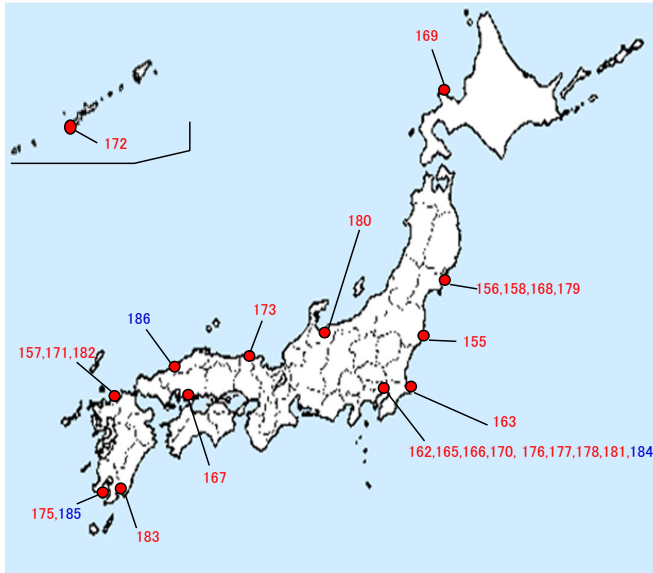
注：令和3年度は、  
4年2月末までの漁獲量

4

# (参考: 今回までに本分科会で報告した改革型漁船)

| 開催年月     | 会議名          | 船団名                | 改革前                |                               |                         | 改革後                |                               |         |
|----------|--------------|--------------------|--------------------|-------------------------------|-------------------------|--------------------|-------------------------------|---------|
|          |              |                    | 網船                 | 運搬船                           | 探索船                     | 網船                 | 運搬船                           | 探索船     |
| 令和3年1月   | 第107回資源管理分科会 | 第十八昭徳丸             | 135トン×1            | 328トン×1<br>339トン×1            | 85トン×2                  | 199トン×1            | 328トン×1<br>339トン×1            | 155トン×1 |
| 令和2年5月   | 第101回資源管理分科会 | 第十八喜代丸             | 135トン×1            | 310トン×1<br>276トン×1            | 85トン×2                  | 199トン×1            | 266トン×1<br>276トン×1            | 85トン×1  |
|          |              | 第八十一大栄丸<br>第八十二大栄丸 | 199トン×1<br>138トン×1 | 334トン×1<br>343トン×1<br>305トン×1 | 85トン×4                  | 199トン×2            | 334トン×1<br>343トン×1<br>305トン×1 | 85トン×3  |
| 令和元年12月  | 第98回資源管理分科会  | 第八十一共徳丸            | 80トン×1             | 308トン×1                       | 99トン×1                  | 300トン×1            | 308トン×1                       | —       |
| 平成31年3月  | 第93回資源管理分科会  | 成田不動丸              | 80トン×1             | 336トン×1                       | 86トン×1                  | 270トン×1            | 370トン×1                       | —       |
| 平成30年11月 | 第91回資源管理分科会  | 第十八開運丸             | 80トン×1             | 341トン×1                       | 100トン×1                 | 300トン×1            | 341トン×1                       | —       |
|          |              | 第十一不動丸             | 80トン×1             | 305トン×1                       | 99トン×1                  | 300トン×1            | 305トン×1                       | —       |
| 平成30年5月  | 第88回資源管理分科会  | 第八源福丸              | 135トン×1            | 295トン×1<br>320トン×1            | 85トン×2                  | 199トン×1            | 295トン×1<br>320トン×1            | 85トン×1  |
|          |              | 第三十一全徳丸            | 80トン×1             | 330トン×1                       | 80トン×1                  | 199トン×1            | 330トン×1                       | —       |
| 平成29年11月 | 第85回資源管理分科会  | 第六福栄丸              | 80トン×1             | 330トン×1                       | 79トン×1                  | 199トン×1            | 330トン×1                       | —       |
|          |              | 第七新丸               | 80トン×1             | 281トン×1<br>311トン×1            | —                       | 300トン×1            | 281トン×1                       | —       |
|          |              | 第十一海栄丸             | 80トン×1             | 315トン×1                       | 79トン×1                  | 199トン×1            | 315トン×1                       | —       |
| 平成28年11月 | 第80回資源管理分科会  | 第三十一昭徳丸            | 135トン×1            | 340トン×2                       | 85トン×2                  | 199トン×1            | 316トン×1<br>338トン×1            | 155トン×1 |
|          |              | 第七十八山仙丸            | 80トン×1             | 292トン×1                       | 91トン×1                  | 300トン×1            | 292トン×1                       | —       |
|          |              | 第一清勝丸              | 135トン×1            | 195トン×1<br>293トン×1<br>286トン×1 | 67トン×1<br>99トン×1        | 199トン×1            | 195トン×1<br>293トン×1<br>286トン×1 | 99トン×1  |
|          |              | 第三十五八興丸            | 300トン×1            | 300トン×1                       | —                       | 499トン×1            | —                             | —       |
| 平成27年11月 | 第74回資源管理分科会  | 第十一源福丸             | 135トン×1            | 270トン×1<br>340トン×1            | 85トン×2                  | 199トン×1            | 270トン×1<br>340トン×1            | 85トン×1  |
|          |              | 第三十一日東丸            | 135トン×1            | 242トン×1<br>286トン×1<br>317トン×1 | 99トン×1                  | 325トン×1            | 317トン×1                       | —       |
|          |              | 第二十一不動丸            | 80トン×1             | 304トン×1                       | 99トン×1                  | 199トン×1            | 304トン×1                       | —       |
| 平成26年11月 | 第68回資源管理分科会  | 第六十一波一丸            | 80トン×1             | 247トン×1<br>254トン×1            | 103トン×1                 | 199トン×1            | 347トン×1<br>254トン×1            | —       |
|          |              | 第一寿和丸<br>北勝丸       | 135トン×2            | 300トン×4                       | 90トン×2                  | 300トン×1<br>250トン×1 | 300トン×1<br>305トン×1            | —       |
|          |              | 第八共徳丸              | 80トン×1             | 300トン×2                       | 84トン×1                  | 199トン×1            | 375トン×1<br>129トン×1            | —       |
| 平成25年11月 | 第63回資源管理分科会  | 第七十八石田丸            | 80トン×1             | 203トン×1<br>332トン×1            | 81トン×1                  | 199トン×1            | 203トン×1<br>332トン×1            | —       |
|          |              | 第六十三惣寶丸            | 135トン×1            | 330～340トン×2                   | 99トン×1                  | 279トン×1            | 340トン×1                       | 99トン×1  |
|          |              | 第八十二大栄丸<br>第八十三大栄丸 | 135トン×2            | 250～343トン×4                   | 85トン×4                  | 199トン×1<br>135トン×1 | 305～343トン×3                   | 85トン×4  |
| 平成24年11月 | 第59回資源管理分科会  | 第八十八稻荷丸            | 80トン×1             | 200～350トン×2                   | 80～100トン×1              | 199トン×1            | 203トン×1<br>332トン×1            | —       |
| 平成23年11月 | 第54回資源管理分科会  | 第2たいよう丸            | 135トン×1            | 200～350トン×2<br>223トン×2        | 85～99トン×1<br>80～100トン×1 | 415トン×1            | —                             | —       |
|          |              | 第八十一石田丸            | 80トン×1             | 200～350トン×2                   | 80～100トン×1              | 270トン×1            | 247トン×1                       | —       |
|          |              | 第八十八石田丸            | 80トン×1             | 200～350トン×2                   | 80～100トン×1              | 300トン×1            | 281トン×1                       | —       |
|          |              | 第八十一天王丸            | 135トン×1            | 320～339トン×2                   | 85トン×1                  | 199トン×1            | 320～339トン×2                   | 245トン×1 |

## 漁業構造改革プロジェクト進捗状況 — 実証事業中・実証予定の計画 — (令和4年4月12日現在)



- 155 いわき(遠洋まぐろ延縄): 経営体統合、大型改革船及び省エネ型改革船の導入による船団操業の効率化等<H31.4～R4.5 改革型>
- 156 遠洋まぐろ延縄(気仙沼⑥): 省エネ・労働環境改善型漁船の導入、航海計画の最適化等<R2.3～R5.2 改革型>
- 157 遠洋まぐろ延縄(大中まき): ミニ船団化(5隻→3隻)、スラリーアイスと冷水水の併用による鮮度保持等<H31.4～R4.4 改革型>
- 158 遠洋まぐろ延縄(気仙沼⑦): 改革型漁船の導入による省エネ運航、縦型コンベアの設置による餌料作業の大幅な省力化等<R1.7～R4.6 改革型>
- 162 海外まき網(海まき③): 共通船型・仕様による建造コスト等の削減、搭載ヘリコプターを用いた素群れ操業等<R1.11～ 共通仕様>
- 163 北まき・饅子(大中まき): 改革型網船の導入、船団縮小(3隻→2隻)、魚船内温度管理システムによる鮮度保持等<R1.6～R4.5 改革型>
- 165 遠洋まぐろ延縄: 共通船型・仕様による建造コスト等の削減、高速ブロードバンド衛星通信システムの導入等<R1.9～ 共通仕様>
- 168 全国さんま棒受網: 共通船型・仕様による建造コスト等の削減、公海操業に対応した冷凍・冷蔵能力の向上等<R1.8～ 共通仕様>
- 167 広島県ニジマス養殖: 海面と内水面が連携した海面2回出し生産による新たな養殖システムの構築等<H31.1～R5.12 改革型>
- 168 近海まぐろ延縄(気仙沼): 共通船型・仕様による建造コスト等の削減、複数隻の連携強化による操業の効率化等<R1.12～ 共通仕様>
- 169 積丹(大型定置): 改革型漁船及び改革型漁網の導入、プリの付加価値向上等<R1.9～R4.8 改革型>
- 170 全国遠洋まぐろ(遠洋まぐろ延縄): 共通船型・仕様による建造コスト等の削減、漁獲物の取込・冷凍作業の省力化等<R2.7～共通仕様>
- 171 遠洋組合(大中まき): 共通船型・仕様による建造コスト等の削減、松浦地区でのバリューチェーン全体の生産性向上等<R2.4～共通仕様>
- 172 糸満(ソデイカ旗流し等): 改革型漁船の導入、急速冷凍装置の導入による操業の効率化、未利用・低利用資源の活用等<R2.1～R4.12 改革型>
- 173 兵庫県但馬(沖底): 共通船型・仕様による建造コスト等の削減、船上凍結による漁獲物の高付加価値化等<R2.9～共通仕様>
- 175 枕崎・気仙沼(遠洋かつお一本釣): 燃油使用量10%削減、4隻の分散水揚、ブライン増産による収益向上等<R2.4～R4.4 マイルド>
- 176 遠洋かつお一本釣: 燃油使用量10%削減、AI漁場予測、ビンナガ・カツオ製品のMEL取得、海外市場開拓等<R2.5～R4.5 マイルド>
- 177 北まき(大中まき): 共通船型・仕様による建造コスト等の削減、5隻の分散水揚、冷水水設備導入による鮮度保持の高度化等<R3.6～共通仕様>
- 178 遠洋まぐろ延縄(ビンナガ漁場): 共通船型・仕様による建造コスト等の削減、省力化機器の導入等<R3.6～ 共通仕様>
- 179 全国遠洋まぐろ(気仙沼): 完全自動スナップ掛け機の導入等による作業負担軽減、省エネ改革型漁船導入等<R3.4～R6.3 改革型>
- 180 全国遠洋まぐろ(富山③): マグロ・サンマ業による周年稼働、豪州への入港等による燃油消費量削減、超低温冷凍サンマ販売等<R2.8～ R4.8 マイルド>
- 181 遠洋まぐろ延縄(ミナミマグロ漁場): 共通船型・仕様による建造コスト等削減、海鳥混獲回避措置、作業安全向上設備の導入等<R3.7～共通仕様>
- 182 遠洋組合(大中まき): 操業コストの削減、魚船に温度管理システム導入し魚船向上、水揚地と連携した流通販売等<R2.12～ R4.11 マイルド>
- 183 串間大規模沖合養殖(プリ養殖): 沖合への大型生簀導入による生産尾数増加(主に輸出用)と作業効率化、労力削減等<R3.1～ R5.12 先端的養殖型>
- 184 海外まき網(海まき④): 共通船型・仕様による建造コストの削減、居住・労働環境改善システム導入、HACCP管理への取組等<共通仕様>
- 185 枕崎(中まき): 船団縮小(6→5隻、25→21人)、ペクトラン繊維漁網、フィッシュポンプ、ウインチ音声認識システム、養殖種苗販売等<改革型>
- 186 浜田②(沖底2そうびき): 省エネ船型、居住・労働環境・安全性改善の大型化(75→121トン)、鮮度保持装置等<改革型>

認定改革計画 186件: 実証事業中 24件、実証予定 3件、  
実証事業終了159件(がんばる漁業への移行  
11件含む)

(注1) 赤数字:実証中の計画、青数字:実証予定の計画 (注2) 計画名は、地域プロジェクト名及び漁業種類の一部を省略して記載 (注3) 計画概要及び地図はがんばる漁業へ移行した11件を除く。

# 漁業構造改革プロジェクト進捗状況 —実証事業を終了した計画① (令和4年4月12日現在)

- 1 八戸(大中まき): 船縮小(4隻→2隻)H20.4→H23.3 改革型
- 2 北海道機船(室蘭)沖底: 省コスト共通船型、操業協同化H20.9→H21.8・H21.9→H24.8 改革型
- 3 大津(大中まき): 船縮小(4隻→3隻)H20.10→H23.9 改革型
- 4 賀島(沖底): 省エネ船型導入H20.9→H23.8 改革型
- 5 鏡子(沖底): 小型化(74トン→19トン)、協業化H20.6→H23.5 改革型
- 6 遠旋組合①(大中まき): 船縮小(5隻→4隻)H21.1→H24.1 改革型
- 7 石巻(大中まき): 単船化、省エネ省コスト化H21.8→H24.7 改革型
- 8 渡崎(大中まき): 船縮小(4隻→2隻)H21.8→H24.7 改革型[自己負担等により実施]
- 9 北海道機船(小樽)沖底: 生産体制の合理化H22.2→H25.1 改革型
- 10 香住(べにずわいがに): 常設活魚船導入H20.9→H23.9 改革型
- 11 境港(べにずわいがに): 省エネ省コスト、高鮮度保持H21.9→H24.8 改革型
- 12 紀伊水道(中まき): 船縮小(9隻→7隻)H21.7→H23.6 マイル
- 13 静岡(大中まき): 船縮小(6隻→5隻)H23.1→H25.1 改革型
- 14 雄塗(遠洋底びき): 新規漁場(インドネシア)開発H21.8→H22.2 マイル>[中止]
- 15 山川(海まき): 海外漁場(パプアニューギニア)の確保H21.11→H23.11 マイル
- 16 葉山(沖底): 耐候性漁船、高品質水揚げH21.9→H24.8・H22.9→H25.8 改革型
- 17 浜坂(沖底): 小型化(90トン→65トン)、省人化H21.9→H24.8 改革型
- 18 小名浜(大中まき): 船縮小(2隻統廃→2隻統廃)H21.10→H23.11 マイル
- 19 北海道機船(釧路)沖底: 船内1次加工等による高付加価値化H22.9→H25.8 改革型
- 20 気仙沼(近海まぐろ延縄): 省エネ省コスト、高鮮度保持H22.8→H25.8・H22.10→H25.10 改革型
- 21 遠洋かつお一本釣(焼津): 省エネ省コスト、高付加価値化H22.9→H24.8 マイル
- 22 網代港(沖底): 省エネ、高鮮度保持H23.4→H26.3 改革型
- 23 遠旋組合②(大中まき): 2船団グループ操業化H23.4→H26.3 改革型
- 24 五島(中まき): 5船団でターココストの削減H23.4→H26.3 改革型、H22.6→H24.5 マイル
- 25 近海かつお一本釣(日南・南郷): 小型化(70トン→19トン)H23.4→H26.3 改革型
- 26 愛媛(真珠養殖): 越物真珠生産H22.11→H25.3 改革型
- 27 越前(小底): 省エネ化、衛生管理H23.3→H26.2 改革型
- 28 北浦(中まき①): 6船団共同操業、共同運搬化H23.4→H26.3 改革型、H23.4→H25.3 マイル
- 29 賀島(沖底②): 省エネ、船凍出荷H23.9→H26.2 改革型
- 30 鏡子(沖底②): 小型化(74トン→19トン)、船首ブリッジ導入H24.6→H27.5 改革型
- 31 遠洋まぐろ延縄(宮古): 省エネ、脱血処理の徹底による付加価値向上H24.5→H27.4 改革型
- 32 八戸(小底): コスト削減、鮮度向上H27.3 改革型[取り下げ]
- 33 遠洋まぐろ延縄(焼津①): 省エネ、流通改善H24.4→H26.3 マイル
- 34 下関(沖底): 小型化(75トン→69トン)、付加価値向上H24.4→H27.3 改革型
- 35 深浦(沖底): 省エネ・小型化(50トン→19トン)、衛生管理、付加価値向上等H25.9→H28.8 改革型
- 36 三重外海(中まき): 船縮小(6隻→4隻)、ウオーターバッグによる活魚輸送等H25.1→H28.1 改革型
- 37 遠洋かつお一本釣(焼津・御前崎): 599トン級での省コスト操業等H27.10→H28.1 改革型
- 38 網代港(小型装置): 省力化、活魚率・鮮度向上、大目合網の導入等H24.4→H27.3 改革型
- 39 遠洋まぐろ延縄(尾籠): 小型化・省エネ、アルコーラスライアイスの導入H24.6→H27.5 改革型
- 40 遠洋まぐろ延縄(高知): 既存船の省燃費型への改修、船上加工H24.4→H26.3 マイル
- 41 浜田(沖底): シリシシ等による省エネ、高鮮度化・活魚販売促進H24.5→H27.3 マイル
- 42 蘇(小底いか釣り): 共同探索・運搬等による操業の効率化H24.6→H26.5 マイル
- 43 遠洋まぐろ延縄(いわき): 省エネ、漁獲物処理の迅速化H25.7→H28.6 改革型
- 44 遠洋まぐろ延縄(気仙沼②): 省エネ、EU衛生基準に対応した設備H25.7→H28.6 改革型
- 45 遠洋まぐろ延縄(気仙沼③): 省エネ型新船導入、高付加価値化H25.3→H28.2 改革型
- 46 遠洋まぐろ延縄(全体計画): 燃油使用量の削減、漁獲物の品質向上等
- 47 遠洋まぐろ延縄(三崎): 船型の小型化、超深網漁法の導入H25.8→H28.7 改革型
- 48 遠洋まぐろ延縄(いちき串木野): 省エネ、次世代型冷凍システムの導入H25.9→H28.8 改革型
- 49 遠洋まぐろ延縄(伊勢): 省エネ・省コスト型漁船、浅網操業の導入H26.2→H29.1 改革型
- 50 遠洋まぐろ延縄(南伊勢): 針数削減等による効率的操業の導入H25.4→H27.3 マイル
- 51 北海道機船(稚内)沖底: 省エネ型漁船、活魚脱血処理等による高付加価値化H25.10→H28.10 改革型
- 52 枕崎(遠洋かつお一本釣): 産卵向けブライン製生薬、燃油使用量の削減H25.3→H26.3 マイル
- 53 紀伊水道(中まき②): 2艘まきから1艘まきへの転換、船縮小(9隻→7隻)H26.2→H29.2 改革型
- 54 北まき・石巻(大中まき・海まき): 単船操業、水揚げ量の大幅削減H26.4→H29.3 改革型
- 55 枕崎(海まき): 合併事業、ブライライン操業、大目網の導入H25.3→H27.2 マイル
- 56 鹿児島魚類養殖(カンパチ養殖): 国産人工種苗、飼料の改良、作業共同化H25.4→H28.8 改革型
- 57 鹿児島魚類養殖(ブリ養殖): 国産人工種苗、2年魚出荷、共同作業船H25.3→H27.7 改革型
- 58 山口外海(小型装置): 新設網の導入、目合い拡大、鮮度保持・出荷調整等H25.12→H28.11 改革型
- 59 福岐(中まき): 燃油消費量の削減、適量漁獲と活魚処理等[見送り]
- 60 宇和島(中まき・小まき): 船縮小(5隻→4隻)、生産コストの削減、活魚化率の向上H26.4→H29.3 改革型
- 61 遠洋まぐろ延縄(焼津②): メバチ・キハダロイン加工、ピンナドレス加工等H25.10→H27.9 マイル
- 62 遠洋まぐろ延縄(気仙沼⑤): 主機駆動発電システム、気仙沼全量水揚げ等H26.4→H29.3 改革型
- 63 佐賀玄海(小型いか釣り): ケンサイイカ活魚1隻、船凍品製造1隻等H26.6→H29.5 改革型
- 64 近海まぐろ延縄(高知): 省エネ、高鮮度、漁場変更(中南海一方向)H25.10→H27.9 マイル
- 65 遠旋組合③(大中まき): 船縮小(5隻→4隻)、2層甲板、ブライライン凍結H26.4→H29.3 改革型
- 66 三重外海(大中まき): 船縮小(6隻→4.5隻)、活魚、寒素ナノバブル高鮮度化H26.5→H29.4 改革型
- 67 近海まぐろ延縄(高知②): 省エネ、新型魚倉、深網、漁場変更H28.5→H31.4 改革型
- 68 福井(沖底): 省エネ、揚網方法の改善、活魚化H25.10→H28.9 改革型
- 69 真鶴(大型装置): 網設置位置の適正化、新設計網の導入H26.3→H29.2 改革型
- 70 遠洋まぐろ延縄(いちき串木野②): 解凍硬直防止技術の確立、地元販売等H26.8→H29.7 改革型
- 71 下関(真珠母貝養殖): 真珠母貝品種絞り込み、共同養殖、母貝大型化等H26.1→H28.12 改革型
- 72 遠洋かつお一本釣(塩釜・焼津): 共同化、温度帯変更、産地基地等H25.12→H27.12 マイル
- 73 静岡(中まき): ミニ船団化、小型化、活魚生産等H26.8→H29.7 改革型
- 74 五島(中まき②): 会社統合、ミニ船団化、活魚生産等H26.1→H28.1 マイル
- 75 近海まぐろ延縄(日南・南郷): 省人、小型化、漁場変更、活餌操業等H26.8→H29.7 改革型
- 76 海外まき網(海まき): インド洋・太平洋の併用操業、改革型漁船2隻の連携、大型化等H27.4→H30.3 改革型
- 77 御島瀬(沖底): 小型化、省人化、直まき方式の採用等H28.9→R1.8 改革型
- 78 竹野(大型装置): 単船操網体制、箱網の改良、底建網の採用、活魚化等H26.5→H29.4 改革型
- 79 秋田(大型装置): 流木予防網、大型クラゲ対策網、高価格魚種選択漁獲網の導入等H27.3→H30.2 改革型
- 80 秋田(小型いか釣り): 船凍品製造、LED集魚灯等H28.8→R1.7 改革型

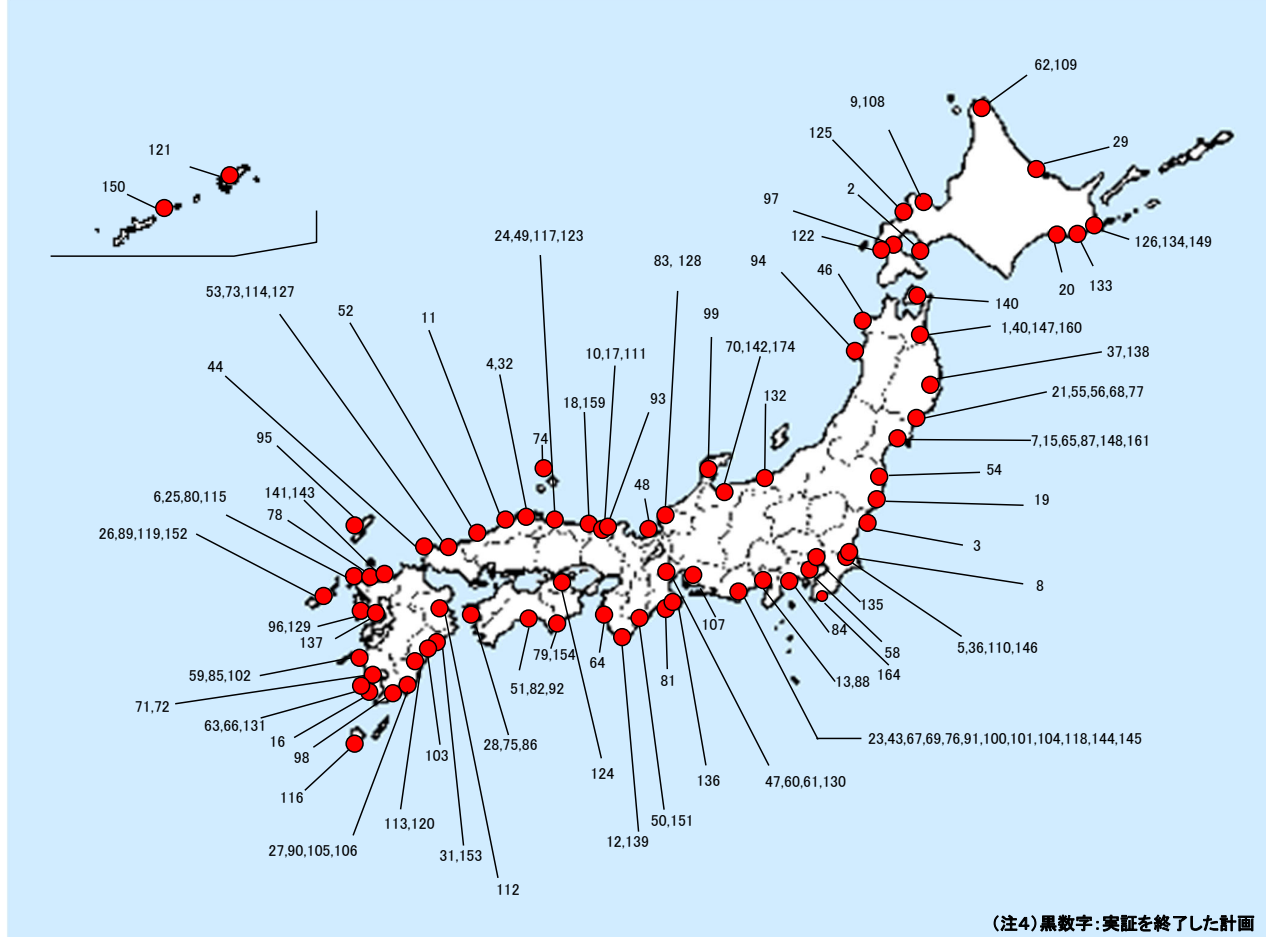
(注4)黒数字:実証を終了した計画

# 漁業構造改革プロジェクト進捗状況 —実証事業を終了した計画② (令和4年4月12日現在)

- 96 遠旋組合④(大中まき): 船縮小(5隻→4隻)、主機関共通化等H27.4→H30.2 改革型
- 97 八雲町(ホタテガイ養殖): 3年貝主体の生産構造への移行、養殖作業の共同化等H26.12→H31.2 改革型
- 98 鹿児島定置(大型装置): 網の保守管理作業の軽減、漁獲物の販売方法の改善等H27.8→H30.7 改革型
- 99 能都(大型装置): 1ヶ所統一合理的2ヶ所操業、改革型金庫網、柔軟な出荷戦略等H27.9→H30.9 改革型
- 100 遠洋かつお一本釣(焼津・御前崎): 599トン級での省コスト操業等H27.10 改革型[取り下げ]
- 101 遠洋まぐろ延縄(焼津③): 代替冷凍導入、冷凍機の稼働効率適正化等H27.3→H29.2 マイル
- 102 串木野(遠洋まぐろ延縄): 経営体統合、既存船の大規模リニューアルH27.9→H30.8 改革型、H27.9→H29.9 マイル
- 103 延岡(大型装置): 両落とし式定置網導入、活魚出荷等販路拡大H27.10→H30.9 改革型
- 104 小川(さば棒受網): まき餌コスト削減、99トン型漁船の導入、活魚・活魚処理等H28.3→H31.2 改革型
- 105 近海かつお一本釣(日南・南郷②): 操業海域変更、海水水製造機の搭載等H27.7→H30.6 改革型
- 106 近海かつお一本釣(日南・南郷③): 操業海域変更、低温活餌装置の搭載等H28.2→H31.1 改革型
- 107 蒲郡(沖底): 操業体制の見直しによる省人化、アザゼビ活魚化等H27.9→H30.8 改革型
- 108 北海道機船(小樽)沖底: LPLによる効率的な操業、省人化、漁具共有化等H27.4→H30.3 多角化
- 109 北海道機船(稚内)沖底: 操業対策委員会による操業、箱詰めの割合向上等H27.4→H30.3 多角化
- 110 鏡子(沖底③): ハイブリッド型漁船での操業、殺菌水生成装置導入等H28.9→R1.8 改革型
- 111 香住(沖底): 巻き返しによる漁具費削減、船上冷凍設備の導入等H27.9→H30.8 改革型
- 112 大分県(中まき): フィッシュポンプの網船への搭載、小型魚の蓄養等H27.11→H30.11 改革型
- 113 川南(沿岸まぐろ延縄): 新たな経営体の確保、漁船の小型化等H28.4→H31.3 改革型(沿岸漁業版)
- 114 山口外海(パイセ): パイセ専業船の導入による船上作業の効率化等H28.7→R1.6 改革型
- 115 遠旋組合⑤(大中まき): 改革型漁船導入による船縮小(5隻→4隻)等H28.5→H31.4 改革型
- 116 鹿久島(漁物一本釣り): 操業協業化による効率化等H28.6→R1.5 改革型(沿岸漁業版)
- 117 網代港(沖底②): 船上加工による6次産業化H28.9→R1.8 改革型
- 118 遠洋かつお一本釣(焼津・御前崎): 599トン改革型漁船での省コスト操業、活魚脱血処理等H27.12→H30.11 改革型
- 119 五島定置(大型・小型): 仕切網による操業効率の向上と魚価向上H28.4→H31.3 改革型
- 120 近海まぐろ延縄(日向): メガジキトラップによる対象魚種の多様化、操業海域変更H28.4→H31.3 改革型
- 121 名瀬沿岸かつお一本釣り: 船縮小、省エネ漁船導入によるコスト削減等H28.8→R1.7 改革型
- 122 ひやま(小底いか釣り): 新型漁獲機器の導入、高鮮度出荷、いか釣り専業化等H28.5→R1.9 多角化
- 123 境港②(べにずわいがに): 冷蔵機能魚倉、冷却水槽による高鮮度化、規格化等H29.4→R2.3 改革型
- 124 香川(海面ニジマス養殖): プリ養殖体漁期を活用したニジマス養殖、ブランド化等H28.1→H30.5 改革型
- 125 古宇郡(ホタテガイ養殖): 養殖施設を9基→33基に増設し生産体制の強化、販路拡大等H28.6→R1.6 多角化
- 126 根室湾中郡(小底いか釣り): 1人乗り操業による高品質生産、LED集魚灯導入等H28.8→R1.7 改革型
- 127 山口外海(大型装置): 兼利用漁場活用による生産性向上、村張りから法人化による経営体制強化等H28.11→R1.0 改革型
- 128 福井(大型装置): 出荷・販売ルートの開発による収益性向上等H29.3→R2.2 改革型
- 129 遠旋組合⑥(大中まき): 活魚輸送・畜養いけすによる漁獲物の有効利用、船縮小(5隻→4隻)等H29.1→R2.1 改革型
- 130 遠洋かつお一本釣(尾籠): 499トン改革型漁船での省コスト操業、活餌イワシ生存率向上等H29.3→R2.2 改革型
- 131 枕崎(遠洋かつお一本釣り): 冷水水によるブライン製の安定供給、省エネ船型導入等H29.3→R2.3 改革型
- 132 上越(小底): 2人体制のギギニ特化した操業モデル確立、傍船との協業化、選別機導入等H29.4→R2.3 改革型(沿岸漁業版)
- 133 厚岸(はいわし棒受網): 漁場探索の協業化、自動まき餌機導入による省人化等H28.5→H30.7 多角化
- 134 横塗(さば・いわし棒受網): 漁場探索の協業化、自動まき餌機導入による省人化等H28.5→H30.7 多角化
- 135 全国さんま棒受網(公海さんま棒受網): 船上凍結製品の生産、ロシア加工船への売上充魚等H28.5→H30.7 多角化、H28.5→H29.7 マイル
- 136 三重県真珠養殖(真珠養殖): 低塩分養成技術の導入、作業船の共同化等H28.6→H31.3 改革型
- 137 長崎以西鹿島(以西鹿びき網): 新設網導入による省人化、キダいの販路拡大等H28.10→H30.9 マイル
- 138 宮古・壱石(沖底): 省エネ型漁船の導入、トロールセンサーシステム導入等による省コスト化H30.2→R3.1 改革型
- 139 太地町(大型装置): 省エネ・省力型漁獲機器搭載の改革型漁船の導入等による省コスト化H29.10→R2.10 改革型
- 140 青森県大畑(小型装置): 改良型網の導入、省エネ型漁船の導入等による生産性の向上H28.11→R1.10 改革型
- 141 遠旋組合⑦(大中まき): 改革型運搬船による養殖用種苗の洋上販売、船縮小(5隻→4隻)等H29.9→R2.9 改革型
- 142 とやま市(大型装置): 改革型マント網の導入、ホタルイカの付加価値化、旧網利用による操業期間延長H28.12→R1.12 改革型
- 143 遠旋組合⑧(大中まき): 改革型運搬船の導入、フィッシュポンプの活用、水使用量の削減、船縮小小等(9隻→8隻)H29.9→R2.8 改革型
- 144 海外まき網(海まき②): VDの高度利用、共同運搬船の活用H28.10→H29.9 マイル
- 145 遠洋かつお一本釣(焼津④): S-1カツオの増産、499トン型基本船型の開発・導入H29.12→R2.12 改革型
- 146 新穂市沿岸漁業(小底): 改革型漁船の導入、消費地市場への自家出荷等H29.3→R2.3 改革型(沿岸漁業版)
- 147 遠洋まぐろ延縄(八戸): プーム式荷役装置を搭載した改革型漁船の導入、転載による効率化等H30.7→R3.6 改革型
- 148 遠洋かつお一本釣(塩釜): 改革型漁船の導入、新製品の生産、タスマン漁場の再開等H30.3→R3.2 改革型
- 149 全国さんま棒受網(落石): 省エネ・省コスト型漁船の導入、フィッシュポンプによる省人化等H29.9→R2.9 改革型
- 150 与論(ソディカ旗流し): 改革型漁船の導入、ソディカ下足の高鮮度出荷、ブランド化等H29.9→R2.8 改革型
- 151 尾鷲(大型装置): 改革型漁船及び改革型漁網の導入、一級起しへの操業転換及び網交換作業の効率化等H29.10→R2.10 改革型
- 152 遠旋組合⑨(大中まき): 改革型漁船の導入、船縮小(5隻→4隻)、運搬船の共同利用等H30.4→R3.3 改革型
- 153 北浦(中まき②): 改革型網船の導入、船縮小(5隻→4隻)、網船冷水水魚船による鮮度保持等H30.4→R3.3 改革型
- 154 野根(大型装置): 改革型漁船及び改革型漁網の導入、周年操業化による生産性向上等H30.2→R3.1 改革型
- 155 浜坂(沖底②): 改革型沖底・いか釣り兼業船の導入、船上凍結による漁獲物の高品質化等H30.9→R3.9 改革型
- 156 青森県八戸(大型装置): 改革型漁船及び改革型漁網の導入、季節網の採用による安定生産体制の確立等H30.10→R3.9 改革型
- 161 北まき・石巻②(大中まき): 改革型運搬船の導入による漁獲物の高鮮度化、石巻の水揚げの増加等H31.4→R4.3 改革型
- 164 千葉県東安房(大型装置): 改革型漁船の導入による船縮小(6隻→4隻)、改革型漁網による周年操業化等H31.4→R4.3 改革型
- 174 全国遠洋まぐろ(富山②): 省エネ機器の導入、長期航海の見直し、省力化機器の導入R2.2→R4.1 マイル

(注4)黒数字:実証を終了した計画

実証事業終了 159件 (がんばる漁業への移行11件含む)



(注4) 黒数字: 実証を終了した計画

実証事業終了 159件 (がんばる漁業への移行11件含む)

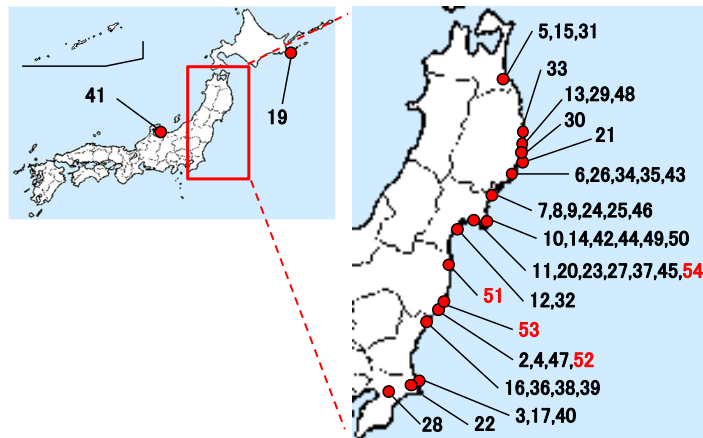
地域漁業復興プロジェクト進捗状況 (令和4年4月19日現在)

【実施中・実施予定の計画】

- 51 福島県・相馬(沖底): 23隻一体による水揚量回復、機動的資源管理、流通加工業者との連携、水産物の安全確保等【R2.9~試験漁業型】
- 52 福島県・小名浜(大中まき): 2グループによる小名浜水揚量の回復、共同運搬、高鮮度保持・高機動運搬船導入等【R2.11~新船型】
- 53 福島県・江名・中之作(さんま棒受網): 5隻による小名浜水揚量の回復、同一型船(3隻)による省コスト等【R3.8~新船型、既存船型】
- 54 宮城県沖底③(沖底): 12隻体制の構築、福島沖漁場の再開発、新船導入による生産基盤向上等【R2.9~新船型、既存船型】

【事業を終了した計画】

- 1 北部太平洋海区大中型まき網漁業復興計画 (大中型まき網)【全体計画】
- 2 北まき・小名浜①(大中まき): 船団縮小(2ヶ統8隻→2ヶ統4隻)、漁獲物の高鮮度保持等【H24.6~H27.5 新船型】
- 3 北まき・波崎②、③(大中まき): 船団縮小(4隻→3隻)、生産コストの削減等【②: H24.4~H25.3 新船型、③: H24.2~H27.1 新船型\*】
- 4 北まき・小名浜②(大中まき): 船団縮小(4隻→3隻)、コンテナバックの導入等【H24.6~H27.5 新船型】
- 5 八戸(大中まき): 船団縮小(4隻→3隻)、船凍品の開発等【H24.5~H26.4 新船型】
- 6 全さんま・大船渡(さんま棒受網): コスト削減、高付加価値化等【H24.10~H26.9 新船型】
- 7 全さんま・気仙沼(さんま棒受網): 兼業型・改革型漁船の導入、フィッシュポンプの活用、高付加価値化等【H24.9~H27.8 新船型】
- 8 気仙沼(近海まぐろ延縄①): 集団操業、水揚量の均衡化、ペア操業による省エネ等【H24.4~H27.4 既存船型】
- 9 遠洋まぐろ延縄・気仙沼: 船上ロイン加工、省エネ等【H24.5~H27.4 既存船型】
- 10 遠洋かつお一本釣リ・女川②: 一本釣りとまき網によるハイブリッド化等【H24.4~H27.3 新船型】
- 11 北まき・石巻(大中まき): 船団縮小(5隻→2隻)、省エネ・省コスト、高品質化等【H25.2~H28.1 新船型】
- 12 亶理(小底): 小底と敷網漁業との兼業化等【H25.1~H28.1 新船型】
- 13 宮古・釜石(沖底): 省エネ・省人・省力化、高鮮度出荷等【H24.7~H27.6 新船型】
- 14 遠洋まぐろ延縄・女川①: 省エネ、低燃費操業、新たな拠点整備等【H25.1~H28.1 新船型】
- 15 八戸(遠洋底びき網): 欧州型漁船の導入、新漁場の利用等【H25.8~H28.8 新船型】
- 16 北まき・大津(大中まき): 船団縮小(3隻→2隻)、省エネ・省コスト等【H25.4~H27.4 新船型】
- 17 北まき・波崎④(大中まき): 船団縮小(4隻→3隻)、新型揚網機等の導入等【H25.6~H28.6 新船型\*】
- 18 全さんま棒受網漁業復興計画 (さんま棒受網)【全体計画】
- 19 全さんま・歯舞(さんま棒受網): LED漁灯の導入による燃油消費量の削減、高付加価値化等【H25.8~H30.8 新船型】
- 20 宮城県沖底①(沖底): グループ操業による漁場の有効利用及び付加価値向上等【H24.9~H27.8 既存船型】
- 21 新おおつち(大型定置): 船団縮小、周年操業、水艙を備えた網船の導入等【H24.9~H27.8 既存船型・新船型】
- 22 北まき・鏡子(大中まき): 船団縮小(3隻→2隻)、小型鮮魚パックの導入等【H26.4~H29.3 新船型・既存船型】
- 23 遠洋かつお一本釣リ・東・中日本: グループ操業、燃油消費量の削減、魚艙の設備改良等【H25.3~H28.3 既存船型】
- 24 遠洋かつお一本釣リ・気仙沼②: S-1製品の製造、燃油消費量の削減等【H25.2~H28.2 既存船型】
- 25 全国遠洋まぐろ・気仙沼: 年2航海操業、労働環境の改善、次世代型冷凍システムの導入等【H25.11~H28.11 新船型】
- 26 全さんま・大船渡②(さんま棒受網): LED漁灯の導入、漁獲物の船上箱詰め等【H25.8~H28.8 新船型】
- 27 石巻底びき(沖底・小底): 低コスト操業と高付加価値化等【H25.2~H27.1 新船型】
- 28 干葉(中まき): 船団縮小(7隻→5隻)、船型の改革による省コスト化、コンテナバックの導入等【H26.4~H29.3 新船型】
- 29 宮古・釜石②(沖底): 省エネ型漁船、省人・省力化、高付加価値化等【H26.4~H29.3 新船型】
- 30 三陸やまだ(大型定置): 船団構成のスリム化による省コスト削減、高鮮度漁獲物の供給等【H25.4~H28.4 新船型】
- 31 八戸③(大中まき): 活魚・鮮魚、凍結魚の搬送可能な運搬船の導入等【H26.10~H29.9 新船型】



- 32 仙台湾(刺し網等): マサバ刺し網から釣りへの転換、活魚出荷等【H25.10~H28.9 既存船型】
- 33 田野畑村(大型定置・小型定置): 網規模縮小によるコスト削減、定員削減等【H26.4~H29.3 新船型】
- 34 全さんま・大船渡③(さんま棒受網): 省エネ・省コスト漁船、船上箱詰め等【H26.8~H29.8 新船型】
- 35 全さんま・大船渡・鏡子(さんま棒受網): 省エネ漁船、曳き網と延縄の兼業漁業、船上箱詰め等【H26.8~H29.8 新船型】
- 36 北まき・大津②(大中まき): 運搬機能付き網船導入、船団縮小(3隻→2隻)等【H27.4~H30.4 新船型\*、H27.5~H30.4 新船型】
- 37 石巻底びき(小底(貝桁)): 資源管理に配慮したグループ操業等【H26.9~H29.8 既存船型】
- 38 北まき・大津③(大中まき): 199T型新型網船導入による船団縮小(3隻→2隻)、運搬船の共同利用等【H27.10~H30.9 新船型】
- 39 北まき・大津④(大中まき): 運搬機能付き網船導入による船団縮小(3隻→2隻)等【H28.1~H31.1 新船型】
- 40 北まき・波崎⑤(大中まき): 船団縮小による合理化、コスト削減等【H28.6~H31.5 新船型、H29.7~R2.3 新船型】
- 41 全さんま(大型)・富山(さんま棒受網): 同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H28.8~R元.8 新船型】
- 42 全さんま(大型)・宮城(さんま棒受網): 同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H28.8~R元.8 新船型】
- 43 全さんま(小型)・大船渡④(さんま棒受網): 同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H28.8~R元.8 新船型】
- 44 全さんま(小型)・宮城(さんま棒受網): 同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H29.3~R2.2 新船型】
- 45 宮城県沖底②(沖底): 新船・既存船グループ操業、高鮮度・高付加価値化等【H28.4~H31.3 既存船型、H29.2~R2.1 新船型】
- 46 気仙沼(近海まぐろ延縄②): 協業化、集団操業、省エネ運航、高鮮度化等【H28.4~H31.4 既存船型】
- 47 北まき・小名浜③(大中まき): 船団縮小(3隻→2隻)、冷海水及び水氷による鮮度保持、分散水揚げ等【H29.3~R2.2 新船型】
- 48 宮古・釜石(沖底③): 省エネ運航、高鮮度化等【H29.9~R2.3 新船型】
- 49 遠洋かつお・まぐろ(遠洋まぐろ延縄・女川③): 省エネ漁船、6次産業化、高鮮度化等【H29.4~R2.3 新船型】
- 50 全さんま(大型)・宮城②(さんま棒受網): 同一船型の導入によるコスト削減、高付加価値化等【H29.12~R2.3 新船型】

※自己負担により実施

認定漁業復興計画 54件: 実施中 4件、実施予定 0件、事業終了 50件

(注1) 赤数字: 実施中の計画、青数字: 実施予定の計画、黒数字: 終了した計画 (注2) 計画名は、復興プロジェクト名及び漁業種類の一部を省略して記載